

山下真帆先生（医学科35期）アンケートご回答

質問1 受賞の喜びをお聞かせください。

この度は歴史ある浜松医科大学同窓会松門会学術奨励賞に選出いただきまして大変光栄に思います。川田一仁先生、本多彰先生をはじめご指導いただいた多くの先生方、ご協力いただいた肝臓内科の先生方、ならびに選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

質問2 いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。

大学院に入学した2019年頃、マウスの胆汁酸合成に関わる Cyp2a12、Cyp2c70 をノックアウトさせて胆汁酸組成をヒトに近づけた DKO マウスが報告されました。マウスとヒトの胆汁酸組成が大きく異なることに着目し、この DKO マウスを用いた新たな PBC モデルマウスの作成に取り組みました。

質問3 今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。

当初は DKO マウスの飼育・繁殖がうまくいかないこともありました。実験が進む中では、予想通りの結果がでたこともあれば、マウスではヒトと異なる点も多く、その解釈に難渋することもありました。個人的な事では、出産・育児を経験し、さまざまな制約もありましたが、多くの方々の協力のおかげで、続けることができました。

質問4 近況をお聞かせください。

現在は、基礎研究、産休・育休期間でしばらく離れていた臨床を中心に行っております。

質問5 今後の課題についてお聞かせください。

基礎研究においては、肝硬変まで進展した PBC モデルマウスの作成や、本モデルマウスを用いた PBC の病態解明、肝線維化研究に携わっていきたいと考えております。臨床においては、自分のスキルアップを図りながら、患者様にとってよりよい医療を提供できるように精進していきたいです。

質問6 今後の同窓会に望むことをお聞かせください。

今回の奨励賞受賞は大変励みとなりましたので、今後とも是非継続していただければと思います。浜松医科大学同窓会のさらなる発展を心より祈念しております。